



ガバナー就任にあたって

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹**

(小樽RC)

今度、思いがけなくもクラブの推薦があり戸惑いがありました。ガバナーという大役をお引受けすることになりました。

小樽RCは日本で十番目に創立され78年の歴史を持ち、これまで5人のガバナーを輩出してきました。私より適任者が多くある中、私に順番がまわってきたのは他の方の多くが諸般の事情で受けるに受けられなかったのではないかと考えております。とは言え、責任の重大さはひしひしと感じております。

今年1月16日から22日までのサンディエゴの国際協議会では、ガバナーの役目は全地区すべての会員に奉仕する心構えを持ちなさいと指導を受けてまいりました。このことをしっかりと心に留めてこの1年間、地区での唯一のRIの役員として役目を果たしてまいりたいと思っておりますので宜しくご協力お願い申し上げます。

特に今年は3月11日の大震災のあった後であり、すでに様々な対策がとられてきておりますが、これからのロータリーの奉仕活動に多くの影響が及ぶと思っております。感傷的にならず明るい展望を持ちながら平常的な運営をし、息の長い支援活動を行ってまいりたいと心しておりますので、宜しくご理解をお願い致します。既に当地区には大震災救援奉仕プロジェクト委員会（阪崎委員長）が3月末にスタートしており、本年度も同じメンバーで活動することが決まっております。

私にとっての最大の課題は、地区会員の減少に歯止めをかけることと思っております。これまで行ってきた研修もこのことを念頭に置きながらやってきました。これまでの歴代のガバナーの方々も何度か純増1名を掲げて会員増強を行ってまいりましたが、これを3名の純増をと研修の場でお話してまいりました。人間は高いハードルがある方が努力するように出来ているようです。先日のニューオーリンズ世界大会ではバネルジーRI会長は、不可能とはちょっと厳しい困難であると話されておりました。困難への皆様の挑戦を期待しております。

また、この世界大会の分科会では「クラブの革新性と柔軟性」というテーマで討論会が開かれておりました。そこでは、同じことを続ければ同じ結果しか得られないこと、そして長年の伝統に終止符を打ち、構造変化をもたらし、さらに魅力あるクラブとなるために変化を取り入れるために何をすれば良いか、クラブで話し合いがされなければならないであろうということでした。

クラブの組織の変化の必要性が問われ、佐々木前ガバナーがCLPを強く取り上げられてきた理由もお分かり戴けるのではないのでしょうか？7月3日の地区会員増強セミナーでは大いに話し合いがもたれることを楽しみにしております。

最後にこの一年間、地区ガバナー補佐の方々、各地区委員会の方々の強力な支援のもと、各クラブ会長・幹事の皆様とガバナー通信等を通じて緊密な関係を築き上げてまいりたいと思っております。これから発信される情報が「ロータリーの友」と共に皆様へのロータリーの奉仕活動の力となってくれることを願っております。